

## 情報連絡員からの報告（要旨）

### 《製造業》

#### 食料品製造業

1. <北海道 水産食料品 >  
昨年比、コロナ禍への対応が進み、景況は好転しているが、一方で、原材料価格の高騰に苦慮している。為替の状況が落ち着きつつあるので今後の動向に期待したい。
2. <岩手県 酒類 >  
中国を始めとする諸外国からの訪日客はコロナ前に戻りつつあり、日本製品や日本酒を含む食品類等の売上に大きな期待をしている反面、海外からの感染流入も注意しなければならない。
3. <富山県 醤油・味噌 >  
原材料の高騰により、仕入価格が上昇している。1月以降も包装資材や原材料の価格改定が続くことや景気後退が予想され、予断を許さない状況である。
4. <京都府 製茶 >  
円安に伴う燃料高や物価の高騰がニュースを賑わしている。茶業界では、高騰している肥料や薬剤、燃料の製品への価格転嫁ができないのが現状である。
5. <島根県 菓子 >  
行動制限もなくなったため帰省客も観光客も増え、売上は上がってきたが、価格転嫁が十分にできず、利益に結び付いていない。
6. <熊本県 麺類 >  
年末はコロナ前と同様に麺の売上が上昇。在庫を多めにしなければ突然の注文に対応出来ない状況となった。気温が下がったことが要因と考えられる。

#### 繊維・同製品製造業

7. <秋田県 繊維 >  
工場の収益として重要な加工賃については、若干改善の兆しが見える。しかし、それ以上に他の経費（人件費、燃料費、資材費等）の高騰により全く利益が確保できず、経営は悪化傾向にある。
8. <岐阜県 婦人子供服 >  
12月の売上高は昨年対比で90%前後となり苦戦中である。食料品や燃料などの必需品の値上げの影響が出ている。
9. <富山県 綿・スフ織物 >  
組合員企業である織布工場については、電力費が経費の3～4割を占めており、電力料金の上昇は致命的である。今後、更に25%近くの値上げが通知されており、死活問題である。
10. <広島県 繊維 >  
販売数量が伸びず在庫負担増加、コスト増加により収益は良くない状況が続いている。今後についても先が見通せず、いつ好転するかはわからない。
11. <徳島県 靴下 >  
生産数量について、年間を通して月毎の生産数の変動があり、平準化できていないので労働力が余る月が出てきている。繁忙期と閑散期で従業員数の調整が必要になり、やりくりが難しい。
12. <福岡県 和装製品他 >  
コロナ関係で売上の極端な減少から持ち直せない状況が継続している。また、コロナ前の流通形態から状況が大きく変化し、対応に苦慮している。

#### 木材・木製品製造業

13. <北海道 一般製材 >  
製材市況は、冬場に入り建築材、産業用資材共に不需求期に入るため、価格は横ばいから弱含みの状況にある。カラマツラミナーについては、価格が大きく下げられた。
14. <埼玉県 木材・木製品 >  
輸入材、合板共に価格のピークは過ぎたが、円高影響が続いている。原木入荷は厳しいが増産要請は続いているため、対応している会社もあれば、生産量(ダウン)調整している会社もある。
15. <石川県 製材業、木製品 >  
11月度売上は昨年と比較すると横ばいであった。住宅メーカーの仕事は12月に入っても11月と同じく低調であり、企業によって受注量に差が生じてきている。

16. <香川県 製材 >  
木材、住宅関連資材の価格上昇により新設住宅着工数は伸び悩んでいる状況で、木材製品価格は全体的に弱くなってきたが販売に繋がらない。昨年同月比、業界の景況は少し悪化している。
17. <佐賀県 家具 >  
12月は、徐々にではあるが、為替の円高トレンドで推移してきたように感じる。現地での木材状況も落ち着きを見せ、コロナ前とはいかにせよ一旦、底値が見えてきたように感じている。
18. <宮崎県 製材業（プレカット） >  
12月の実績は前年比75%。製造コストも上がってきており、収益面で厳しい状況が続くと思われる。特に電気料金は大きく値上がりしており、11月の使用量は前年並みも、料金は1.4倍になった。

## 紙・紙加工品製造業

19. <茨城県 段ボール >  
生産数量は前年同月並みであるが、ガソリン・電気・その他の値上りで収益が悪化している。製品価格の改定を客先をお願いしていかないといけない。
20. <東京都 紙加工品 >  
紙需要が減少している中で、エネルギー価格が高騰している。価格転嫁などを行っているが苦戦している。組合員の1社が得意先の事業縮小の煽りを受け廃業した。
21. <山梨県 紙 >  
原材料・電力価格の高騰分を商品単価に転嫁できておらず、前年同月と比べ売上は▲15%となった。客足もコロナ以前まで回復しておらず、今後も厳しい状況が続くことが予測される。
22. <愛知県 段ボール >  
土産物関係が引き続き好調であるが、工業品関係が昨年並みであり、先行きが見通せない。来年からは材料がすべて値上りするため、コスト転嫁できるかが鍵となってくる。
23. <大阪府 古紙収集加工 >  
古紙、雑誌古紙は発行部数減により大幅に減少、また、印刷用紙の需要不振により家族向け産業古紙の発生も極端に減少している。業界全体としての景況は悪化している。
24. <高知県 手すき和紙 >  
新型コロナウイルスの第8波や原材料の高騰・円安など一向に良い兆しが見えず、厳しい状態が続いており、先行きは不透明。コロナ前の状態には戻らず、売上の鈍い状態が続いている。

## 印刷

25. <福島県 印刷・同関連 >  
年賀状を含め、年末特有の受注が減少傾向である。ペーパーレス化の伸展による経費削減、原材料価格の高騰、エネルギーコストの増加等から受注量の減少に至っている。
26. <栃木県 印刷 >  
コロナ禍の影響は4年目に入るが、リモートワークやSDGs等によるペーパーレスが進む中、材料費高騰が追い打ちをかけ、社会全体のデジタル化に伴う印刷需要の減少が避けられない。
27. <長野県 印刷 >  
年末に向け動きは出てきているが、不安定な国際情勢や円安の背景により、更に原材料価格の高騰が続いており、中小・零細企業の多い業界で売価への転嫁が十分に進んでいない。
28. <滋賀県 印刷 >  
原材料、燃料等すべての値上がりの影響で、顧客に対しなかなか強い売り込みが出来ず、それにより自分の会社の資金繰りについても厳しくなる一方で、頭の痛いことばかりである。
29. <広島県 出版・印刷・同関連 >  
試行錯誤の繰り返しによって少しずつ仕事が戻ってきている。今出来ることや、将来のために今打つべき一手を考える重要な時期だと捉えたい。
30. <長崎県 印刷 >  
売上高は穏やかな回復傾向にあるが、材料の価格高騰の影響が長期化しており、依然として厳しい状況である。

## 化学・ゴム

31. <東京都 ゴム製品 >  
前年比で自動車関連の受注が減少している。原油高による電気代の高騰で利益がマイナスになっている。現状を維持するだけで精一杯である。
32. <神奈川県 石油製品 >  
原料価格の値上りを価格に反映できない状況に変化はなく、売上高は増加しているものの、収益は悪化している。年末から円高方向に多少変動したが、資金繰り改善までは至っていない。

33. <愛知県 高圧ガス >  
順調に推移している工作機械関係を除く輸送機器関係、電機関係は好不調の波が大きい。出荷量としては、輸送機器向けが回復傾向となっている。
34. <大阪府 石鹼洗剤 >  
コロナ需要の反動減で大きく動いた2021年度に比べ、2022年度は平年並みに戻りつつあり、景況としては安定している。
35. <和歌山県 化学 >  
対前月比、出荷量では全品目において著しい変動はなかったものの、出荷額では医薬農薬中間物が30%程度、高分子化合物が5%程度増加し、結果的に出荷額は6%程度増加している。
36. <岡山県 ゴム >  
生産(売上)は戻ってきているが、原材料コスト、エネルギーコスト等の上昇、高止まりに加え、為替、労務費の増加により、収益面では組合各社の業況は厳しい。

### 窯業・土石製品製造業

37. <栃木県 陶磁器・同関連製品 >  
12月は土日の観光客が減少しているため、小売の売上が落込み、製造の稼働も抑え気味である。1月より粘土等が値上がりするため、今月は、仕入れを増やしており、支払いの負担が大きい。
38. <山梨県 骨材・石工品等 >  
電力や燃料、消耗品等の価格が値上りしているが、製品価格への転嫁が進まず、前年同月と比べ売上▲6%、収益状況▲8%となった。
39. <岐阜県 陶磁器(工業) >  
売上、受注は増加傾向にある。原材料、燃料費が高騰しており価格転嫁が追い付いていない。輸出は東南アジアを中心に増加している。
40. <和歌山県 セメント・同製品 >  
出荷量は前年比100%で推移しているが、前々年比で考えると90%程度となり年々減少している。
41. <山口県 コンクリート製品 >  
公共工事の発注が徐々にUPしてきたが、前年比30%程度減の状況に加え、セメント・電気・運賃等々の値上がりが続いており、今年度での業績回復は、ほぼ不可能だと感じている。
42. <佐賀県 陶土 >  
12月の陶土共同販売高は、対前年同月比約118%、対前月比約99%で推移する見込み。状況としては、先月と大差はなく、動きは鈍いままである。

### 鉄鋼・金属製造業

43. <北海道 金属製品 >  
海運業の復調により造船業は危機的状況は脱したものの、鋼材価格は2020年度の2倍になるなど資機材価格高騰に船用機器の調達難も加わり、依然として厳しい経営環境にある。
44. <埼玉県 鉄鋼・金属 >  
年末にかけて全体的に生産量がやや落ちてきた影響で、鋼材の使用数も減退したが、その価格は高止まりした状態が続いている。工作機械部品の受注はいまひとつ伸び悩んでいる。
45. <新潟県 ハウスウェア >  
業界全体としては、新型コロナウイルス禍前の売上に戻りつつある企業もあるが、一方でまだまだ低迷している企業もあり二極化の状況である。依然として収益悪化を懸念する企業も多い。
46. <富山県 めっき加工 >  
販売単価の値上げによって、売上高は増加している。前年同月比で材料費約15%、水道光熱費約50%、動力費約20%上昇しており、収益状況は悪化している。
47. <鹿児島県 金属製品 >  
見積件数が少しずつ増えてきて順調に受注が続いている組合員も多いようだが、今後の端境期や繁忙期を見据えて協力体制の確立が必要と思われる。
48. <沖縄県 鉄鋼 >  
原料価格は不安定な状態が続いている。遅延していた民間工事の稼働により物件は動き出しているが、個人住宅は低調で、人手不足もあり、工事の進捗について注視が必要である。

### 一般機器製造業

49. <山形県 その他の電気機械器具 >  
印刷細密機械部品の受注が増えて売上・利益が増えたが、取引条件が厳しくなっている。原材料・電気料金の値上げにより、今後販売価格の見直しをおこなう組合員もいるようだ。

50. <群馬県 はん用機械器具 >  
建設機械関連は好調に推移していたが、陰りが見え始める。一方、自動車関連は半導体の調達が安定しつつあり横ばいで推移している。全体的に人手不足の状況にある。
51. <静岡県 生産用機械器具 >  
複数の組合員において、未だに半導体絡みの一部部品に調達遅れが生じ、出荷できずに在庫負担が増大。売上計上できない状態を余儀なくされている。
52. <三重県 一般機器 >  
半導体不足は依然として続いており、自動車、設備関連は減少傾向となっている。建設や土木については好調が継続しているが、輸入部材が入荷せず、仕事がない事業所が出てきている。
53. <山口県 一般産業用機械・装置 >  
例年、年末から2月は閑散期であり、極端に忙しい、仕事がなく困っている組合員企業は無く、何とか乗り越えている状況。年度末、年度初めに、それなりの受注が入っている模様である。
54. <愛媛県 鉄工 >  
売上は前年より増加も、原材料費・仕入単価の高騰が続いている。円安は一服したが依然として前年比円安が続いている状況。来年に向けて電気料金的大幅な上昇が見込まれている。

### 電気機器製造業

55. <東京都 配電盤 >  
部品供給不安を反映してか、前倒しの受注が増加傾向にある。但し、短納期の案件は引き続き避けている。業況改善の兆しは見えない。
56. <新潟県 電気機械器具 >  
仕入先の部品の欠品及び欠品の物の納入日が不明のため、予定の納期に完成せず、納入出来ないため売上が先送りになる。よって売上予定月に売上に出来ず、先送りとなり売上が減少した。
57. <山梨県 電気機械器具 >  
部材の納期が遅延しており、製造期間が延びていることと、部材・電力価格の高騰による発注者の受注抑制が稼働率の足かせとなっている。
58. <愛知県 電気機器 >  
増収減益状況は変わらず。材料調達困難に伴う、在庫増加で資金繰りは悪化しているが、徐々に改善の兆しは見てきた様子である。
59. <兵庫県 電子部品・デバイス・電子回路 >  
自動車メーカーでは、半導体供給不足の影響で、生産計画を下方修正しており、この影響により前月とほぼ同水準の稼働となっている。
60. <長崎県 電気機器 >  
コロナ禍や世界情勢の影響によって、部品の納入遅延や資材の高騰に直面しているが、引き続き営業活動及び公共工事の入札案件に注力し、受注に繋げていきたい。

### 輸送用機器製造業

61. <茨城県 県北地区自動車部品 >  
売上高は徐々に回復傾向にあるものの、収益は鈍化している。業界全体で見れば、やや好転の状況である。
62. <静岡県 輸送用機械器具 >  
部品調達の影響による生産計画の変更は減少しており、比較的安定した生産ができるようになってきたが、半導体の安定調達にはまだまだ課題がある。
63. <愛知県 輸送機器 >  
売上は前年同月と変わらず、増減ゼロ。但し、設備投資が冷え込んだままで、この先も売上低迷が続く見通しである。特に、主力の鉄道車両関係の落ち込みが響いている。
64. <兵庫県 輸送用機械器具 >  
今月の売上高は前月に比べ5.0%減収の38百万円であった。結果、今年度の通期売上は昨年度とほぼ同額の87億円となった。
65. <山口県 鉄道車両・同部品 >  
鉄道車両関係は順調に推移している。今後2年間は同程度での推移と思われるが、令和7年(2025年)以降の見通しは不明。従業員確保及び技能継承には苦労している。
66. <大分県 造船 >  
増員を計画し推進しているものの、人材確保までには至っていない。溶接工の人材不足に対しては、特定技能生で補充している状況である。

## その他の製造業

67. < 福島県 漆器 >  
百貨店の動きは全くない。人の動きは鈍いものの、ネット注文を含め客単価は高かった。インバウンドの動きも出てきている状況である。
68. < 神奈川県 工業中心の複合業種 >  
年末に向け受注が減少傾向のところも出ているが、受注増でも材料・電気・原油等、全ての高騰で利益は出ない状況は続いている。今後も収益減・賃上げ・人材不足と課題は山積みである。
69. < 石川県 漆器 >  
原材料費や光熱費・ガソリン代等の価格上昇が止まらず、価格転嫁も含めて不安要素が大きい。展示会の開催も徐々に増加しているが、まだ売上が伴っていない。
70. < 福井県 眼鏡 >  
受注については引き続き好調であるが、原材料価格や中間加工コストの上昇が続いているうえ、電力料金のアップが大きく影響している。一方、OEMや小売側での価格転嫁が喫緊の課題。
71. < 和歌山県 その他 >  
原材料の仕入が難しくなっている。仕入が出来たとしても日数がかかる。価格もどんどん上がっている。今後の見通しが立たない。
72. < 香川県 漆器 >  
コロナは相変わらずであるが、各地年末の人出は多く、売上也昨年よりは増加している。価格の値上げは年明けまで持ち越して採算面では悪化している。

## 《非製造業》

### 卸売業

73. <福島県 再生資源 >  
古紙の市中回収量は年末期で増加したものの、内外向けともに需要が減少し厳しい状況である。鉄スクラップは輸出価格が上昇し、強気展開である。
74. <千葉県 医薬品卸売 >  
患者数も全体的に増加傾向にある中で、年末の医薬品備蓄も重なり、売上は増加している。新型コロナウイルス感染症の感染再拡大に伴い、治療薬や検査キットの受注が増加している。
75. <東京都 電線卸売業 >  
外資系企業による大型案件があるため、電設市場は、しばらく活況が続く見通し。膨大な物量により、既にケーブルはメーカーで受注制限となっている。
76. <岐阜県 陶磁器 >  
注文を受けてもメーカーの生産能力が低下しており、納品が間に合わず商機を逸している状況である。加えてメーカーの値上げの影響も大きい。輸出は依然として好調をキープしている。
77. <高知県 各種商品 >  
コロナ禍と原材料高騰のため、経営が圧迫されている。売上減、来店数減少、従業員の欠員(感染又は濃厚接触者として)等の影響も出ており、今後も売上減少が続くと思われる。
78. <大分県 食糧集荷 >  
コロナ禍での外出制限が減ったため、業務用の販売が回復している。但し、スーパーの昨対売上が70%程度となっており、販売先の売上は伸びてきていないようである。

### 小売業

79. <北海道 各種商品 >  
毎日観光客が多数来場している。購入目的の観光客で外国人観光客が多い。コロナ前に戻っているようである。しかし、法人からの歳末注文はコロナ以前の水準には回復していない。
80. <青森県 自動車 >  
今年はコロナ禍、販売台数の減少(約10%減)のほか、防犯登録、TSマーク点検も10%程度の減少となっている。半期ごとに商品の値上げが続く、来年の販売台数の減少が心配である。
81. <静岡県 鮮魚 >  
小売店の売上は前年を上回ったものの、内食から外食への需要の移行、物価上昇の影響・消費者の節約志向の強まりにより、コロナ前の水準には及ばなかった。
82. <滋賀県 書籍 >  
紙等の原料価格が値上がりしたのに合わせて価格も値上りしている。食料品等へ使う金額の比率が上昇し、業界への買い控えが生じている。
83. <愛媛県 中古車 >  
中古車相場の高騰は徐々に収まりつつある。中古車の流通台数も増加傾向にあり、新車の納車期間の長期化が徐々に改善しつつある模様。暫くは底堅い中古車の輸出需要が見込まれる。
84. <鹿児島県 青果食品 >  
年末需要で取引高が増加した。また、人気商材の生産量が少なく、価格高で推移した。売上高、販売価格とも上昇したが、光熱費も高騰しており、利益を圧迫している。

### 商店街

85. <岩手県 商店街 >  
夜の飲食街は年末には賑わいが見られたものの平常時の賑わいには程遠く、飲食街に位置する組合直営駐車場の現金利用は8.8%減とやはり前年より悪い状況である。
86. <東京都 商店街 >  
前月に引き続き、インバウンドの売上が順調に増加している。業務用の売上も前年に比べ増加傾向にある。
87. <静岡県 商店街 >  
久しぶりに行動制限のない年末年始を迎えた。昨年・一昨年に比べて賑わいは感じたが、あまり売上に結びつかなかった。

88. <石川県 商店街 >  
本来であれば繁忙期となる12月だが、商店街にあまり活気が感じられない。旅行に行くなどの「コト」は回復傾向にあるが、それが直接消費に結びつくような動きにはなっていない。
89. <愛媛県 商店街 >  
秋頃まで暫く感染症の拡がりも落ち着きを見せていたが、月半ば辺りから徐々に増加している旨の報道などにより、企業を中心に忘年会を控える(キャンセル)流れが増えている。
90. <大分県 商店街 >  
12月は概ね売上は昨年並か低下している。仕入れコストや光熱費の高騰で利益率が悪いところが多かった感じである。雇用も時給を上げなければ人の確保が難しくなっている。

## サービス業

91. <山形県 美容 >  
美容室にもよるが、昨年に比べ12月の美容室の利用者は増えてきている感がある。原材料費や光熱水費の高騰等による経済活性化への悪影響が不安なところである。
92. <石川県 旅館、ホテル >  
客室稼働率は例年以上に好調を維持しており、国内旅行の活性化やインバウンドの再開が要因であった。年末最終週末までは好調維持も、年末年始は逆に例年を下回りそうである。
93. <滋賀県 広告 >  
原材料価格の高騰が一段落し、わずかながら下降に転じてきたこと、それに加え販売価格への転嫁も進んできたことなどから利益率が向上してきた。
94. <大阪府 警備 >  
コロナ禍の影響は続いているが、社会経済活動が回復してきたことで、警備業務の受注も徐々に増え、売上は昨年同月比増加した。依然、慢性的な警備員不足が問題である。
95. <島根県 情報サービス >  
行政や教育関連のIT需要が例年並みにあり今年度も売上は安定している。半導体不足でIT機器の納期遅延や円安での価格上昇が増加してきている。全国的にIT技術者不足が進んでいる。
96. <福岡県 普通洗濯 >  
前年対比で売上は微増だが19年比ではまだ回復していない。原材料の度重なる値上げで、業界の中でも再度の値上げを検討している会社もある。ここにきて中堅会社の倒産が少し出てきた。

## 建設業

97. <秋田県 電気工事 >  
集合住宅などの大型物件を受注した組合員は多忙となり、職人の確保に苦慮している。少額の物件は数が少ないこともあり、受注では明暗が分かれている。
98. <栃木県 職別工事 >  
年末を迎え、工事受注高は対前年同月比及び対前月比ともに増加傾向にあるものの材料費の上昇により収益を圧迫している。当面、賃金の増加は見込めない。
99. <福井県 ブロック工事 >  
資材の値上がりと値上がりによる駆け込み需要で売上が増加している。工事の案件はかなり多いが、人手不足により手が回らず断っている状態。今後は、大雪の影響を懸念している。
100. <愛媛県 電気工事 >  
半導体不足の影響は少しずつ改善されてきているが、センサー系など一部の製品においては納期が出ないなどの影響が続いており、工期の長い物件には、大きな影響が出ている。
101. <佐賀県 鉄構 >  
組合企業の手持工事量が平均3ヵ月、工場稼働率が平均80%となっているが、各社の山積みにはばらつきが多い。中小物件の見積りが少なく先行きが懸念される。
102. <鹿児島県 設備工事 >  
材料、機器等納期遅延が続いており、工程管理が困難である。価格も上昇傾向にあり、先行き不透明である。

## 運輸業

103. <青森県 一般貨物自動車 >  
昨年比で輸送量は平年並みに戻っており、運賃も希望価格には届かないものの10%前後上昇。但し、働き方改革による労働時間の制限が厳しいため、運賃上昇分の効果は見られない。
104. <埼玉県 運輸 >  
各社十分とまではいかないが、運賃への価格転嫁は進んでいる。但し、燃料価格の高止まりは、収益を圧迫している。

105. <新潟県 貨物軽自動車 >  
12月の後半からの寒波の影響で大手運送会社が機能せず、通常の運搬が出来なくなった。そのため赤帽に受注が集中しクリスマス商戦、定期案件などが全部重なり、配車困難が続いた。
106. <奈良県 軽貨物運送 >  
チャーター便は長距離配送が前年比55%と大幅に減少し、売上は前年比80%の予測。引越し便は単身者の引越しが非常に減少し、家具・家電1～2点の移動が中心である。
107. <鳥取県 運輸 >  
12月の物流は、製造業の一部に生産調整が継続しており物流の減少が続いているなか、停滞していた農産物の出荷量が増加し空車状況は避けられたものの厳しい状況は続いている。
108. <鹿児島県 運輸 >  
鳥インフルエンザが拡大し、出荷調整によって物量が減少した。また、野菜・生花も安値や天候不良等により前年対比で物量は減少した。燃料高騰で省燃費運転を指導している。

#### その他の非製造業

109. <宮城県 不動産 >  
建築費の高騰が続いており、更に今春にかけてコストアップするとの話をよく聞くようになった。賃貸マンション・アパートの建築に関しても例外ではなく、収益性に大きく影響していくと思われる。
110. <千葉県 輸出入 >  
12月は、クリスマス期間ということもあり日本へ出入国する外国人旅行客でにぎわい、それに伴い店舗利用客の増加があった。空港第2ビルの店舗売上もコロナ前の7割まで回復してきた。
111. <山梨県 老人福祉・介護 >  
訪問介護については、新規の依頼は少なくなったが、既存顧客の利用頻度は高く人手不足が深刻である。創業する事業所もあるが、人手不足による廃業も多い。
112. <奈良県 質屋 >  
円高進行に転じた為替相場の影響も懸念されたが、年末商戦に向けた在庫確保の観点から、ブランドジュエリーなどの小売向け商材の相場が上昇している。
113. <岡山県 信用組合 >  
サービス、飲食業で一定の回復が見られたが、7割程度に止まり横這いが続いている。物価上昇等の経費増による資金繰り困窮は続くため、価格転嫁指導、本業支援に注力していきたい。
114. <広島県 不動産 >  
マンション販売については新築販売がやや鈍化している。中古マンションについては依然として販売価格が高値で推移している。